Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第24号
2021年（令和三年） 9月24日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

9/9～9/15のNYMEX・WTI先物市場は、68.14～72.16ドルの範囲で推移した。

9月16日は、最近の高値を受けた利益確定売りの一方、ハリケーン「アイダ」の復旧の遅れへの懸念による供給不安、また、堅調なニューヨーク州製造業景況指数の発表を受けた買いが拮抗し、前日比横ばいとなった。10月限の終値は前日比横ばいの72.61ドル。

週末17日は、このところの高値、あるいは対ユーロのドル高進行に伴う利食い売り、また、ハリケーン「アイダ」・「ニコラス」からの復旧の加速による需給の緩和感から、下落した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比10基増の411基。10月限の終値は前日比0.64ドル安の71.97ドル。

週明け20日は、中国不動産大手の巨額負債報道を契機とする米国株式の暴落で、投資家のリスク回避姿勢が大きく、続落した。ただ、ハリケーン「アイダ」の影響で、シェルの集油施設の復旧見込みが年末になるとの発表があり、供給不安が残る中、下値は固かった。10月限の終値は前日比1.68ドル安の70.29ドル。

21日は、前日の過度なリスク警戒感の反動で、買いが進み、反発した。前日のシェルの発表も、値上がり要因となった。10月限の終値は前日比0.27ドル高の70.56ドル。

22日は、米国エネルギー情報局の在庫週報で、原油が取り崩され、さらに、米国株価も回復したことから、需給のタイト感が意識され、大幅に続伸した。この日から、期近物となった11月限の終値は前日比1.74ドル高の72.23ドル。

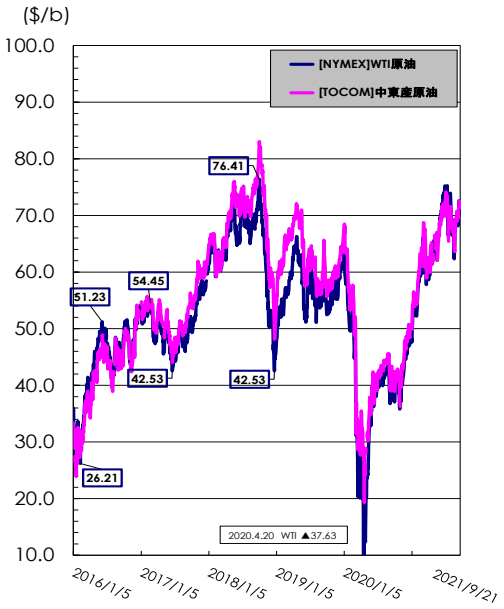
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月9日～15日の間、70.20～72.20ドルの範囲で推移した。9月16日73.40ドル、17日73.00ドル、21日72.50ドル、22日73.30ドルで推移した。

為替は9月9日～15日の間109.65～110.23円の範囲で推移した。9月16日109.41円、17日109.81円、21日109.57円、22日109.22円で推移した。

財務省が9月16日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、50,790円/klで、前旬比809円安、ドル建て73.31ドルで前旬比1.48ドル安、為替レートは1ドル/110.14円。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、50,982円/klで、前月比1,108円高、ドル建て73.76ドルで前月比2.04ドル高、為替レートは1ドル/109.89円。

そのような中で、9月21日時点の小売価格は、ガソリンが前週（9月13日）比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同2円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。この週（9月第3週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の値上げとなった模様。

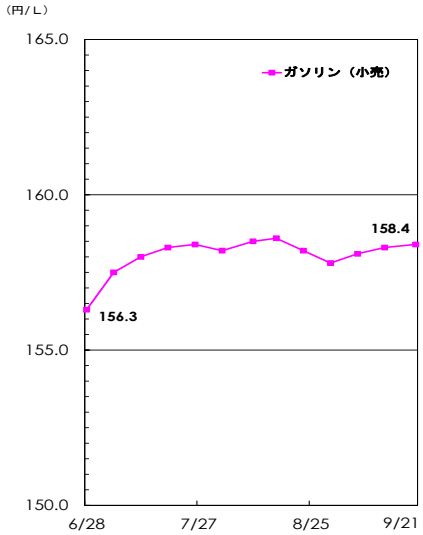
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	9/12 ～ 9/18	2,852	▼ -94	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	74.1	▼ -2.4	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	9/18	9,787	▼ -882	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	9/21	71.47	▲ 0.32	▲ 30.2
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	9/20	70.29	▼ -0.16	▲ 31.0
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	8月下旬	73.31	▼ -1.48	▲ 29.86
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	50,790	▼ -809	▲ 21,788
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	110.14	▼ -0.46	▼ -4.03
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	9/21	110.57	▲ 0.41	▼ -4.43



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/12 ～ 9/18	859	▲ 11	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	746	▲ 41	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -185	▼ –
	在庫		9/18	1,691	▲ 113	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/14 ～ 9/20	66.9	▲ 0.2	▲ 24.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/14 ～ 9/20	66.0	▲ 1.3	▲ 27.7
		(TOCOM/中部)	9/17	66.7	▲ 1.0	▲ 24.9
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/21	158.4	▲ 0.1	▲ 23.4

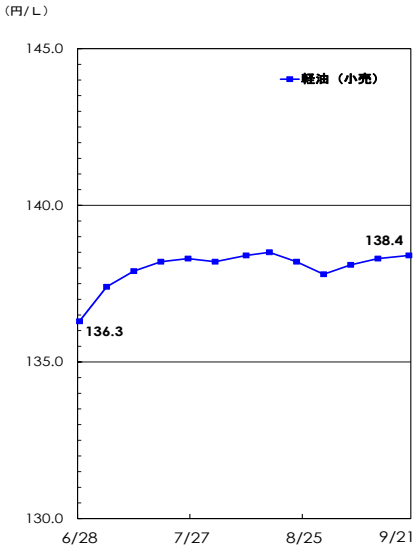
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

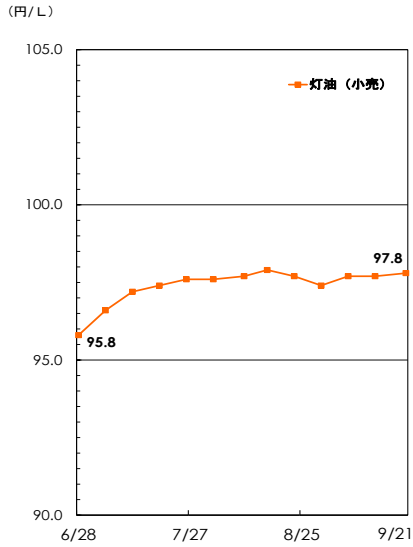
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/12 ～ 9/18	731	▼ -45	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	605	▲ 27	▼ –
	輸出		〃	71	▼ -235	▲ –
	在庫		9/18	1,531	▲ 54	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/14 ～ 9/20	68.0	▲ 0.1	▲ 22.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/14 ～ 9/20	68.4	▲ 1.4	▲ 21.6
		(TOCOM/中部)	9/17	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/21	138.4	▲ 0.1	▲ 22.9

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/12 ～ 9/18	184	▲ 23	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	52	▼ -1	▼ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		9/18	2,377	▲ 131	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/14 ～ 9/20	67.5	▲ 0.1	▲ 22.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/14 ～ 9/20	65.2	▲ 1.3	▲ 23.3
		(TOCOM/中部)	9/17	67.0	▲ 1.4	▲ 24.1
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/21	97.8	▲ 0.1	▲ 16.9



■ 関連情報

1　海外/原油

9月22日のNYMEXのWTI先物原油は、米国原油の在庫減少を受け、大幅に反発続伸した。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計は、原油が前週比350万バレル減と市場予想(240万バレル減)を上回る7週連続の在庫取り崩し、在庫水準も3年ぶりの水準に低下した。また、中国不動産最大手の経営危機も、政府が乗り出したことで、リスク警戒感が和らぎ、米国株価も上昇した。この日から期近ものとなった11月限の終値は前日比1.74ドル高の72.23ドル、12月限の終値は1.75ドル高の71.89ドル。

EIAによると、9月20日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.9セント値上がりの1ガロン3.184ル(93.1円/㍑)、ディーゼルは同1.3セント値上がりの3.385ドル(99.0円/㍑)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルも2週ぶりの値上がりとなった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年9月12日～9月18日に休止したトッパー能力は24.9万バレル/日で、前週に対して6.9万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は285.2万klと、前週に比べ9.4万kl減少。前年に対しては24.8万klの増加。トッパー稼働率は74.1%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては7.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.4%増、ジェット/5.0%減、灯油/14.6%増、軽油/5.8%減、A重油/13.0%減、C重油/8.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は7.1万kl(前週比23.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は74.6万kl(対前週5.8%増)と3週振りに増加した。ジェット5.1万kl(対前週4.6%減)、灯油5.2万kl(対前週1.2%減)、軽油60.5万kl(対前週4.8%増)、A重油13.6万kl(対前週15.1%減)、C重油11.7万kl(対前週30.5%減)。

(単位：千KL)

	今週 (9/12 ~ 9/18)	前週 (9/5 ~ 9/11)	前週比	
ガソリン	746	705	▲ 41	(6%)
ジェット燃料	51	53	▼ -2	(-4%)
灯油	52	53	▼ -1	(-2%)
軽油	605	578	▲ 27	(5%)
A重油	136	160	▼ -24	(-15%)
C重油	117	168	▼ -51	(-30%)
合　計	1,707	1,717	▼ -10	(-1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

9月18日時点の在庫は、A重油で取り崩しととなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは169.1万kl、前週差11.3万kl増。前年に対しては13.8万kl少ない。

灯油は237.7万kl、前週差13.1万kl増。前年に対しては39.9万kl少ない。

軽油は153.1万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては3.3万kl少ない。

A重油は74.6万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては0.4万kl多い。

C重油は204.7万kl、前週差7.9万kl増。前年に対しては16.4万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (9/18)	前週 (9/11)	前週比	
ガソリン	1,691	1,578	▲ 113	(7%)
ジェット燃料	872	843	▲ 29	(3%)
灯油	2,377	2,246	▲ 131	(6%)
軽油	1,531	1,477	▲ 54	(4%)
A重油	746	754	▼ -8	(-1%)
C重油	2,047	1,968	▲ 79	(4%)
合　計	9,264	8,866	▲ 398	(4.5%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

9月14日～20日の指標原油価格は前週（9月7日～9月13日）比で値上がりし、為替レートはわずかに円高であったが、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週（9/23～9/29）の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

9月14日～20日の製品スポット市況は、9月7日～9月13日平均と比べ、海上・軽油の横ばいを除いて、他の全油種・全取引で値上がりした。

直近週（9/14～9/20）の陸上スポット価格平均値は、前週（9/7～9/13）比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。同期間（9/14～9/20）において、ガソリンは120円台でわずかに値上がり、灯油は67円台でわずかに値上がり、軽油は67～68円台でわずかに値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（9/14～9/20）に、前週（9/7～9/13）比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は横ばいだった。。海上スポット価格は、同期間（9/14～9/20）に、ガソリンは121円台でわずかに値上がり、灯油は64～65円台で値上がり、軽油は69円台でわずかに値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間（9/14～9/20）に、ガソリン119～120円台で値上がり、灯油65円台でわずかに値上がり、軽油68円台で値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(9/14 ~ 9/20)	前週　(9/7 ~ 9/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	66.9	66.7	▲ 0.2
	灯油	67.5	67.4	▲ 0.1
	軽油	68.0	67.9	▲ 0.1

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(9/14 ~ 9/20)	前週　(9/7 ~ 9/13)	前週比
先物価格	レギュラー	66.0	64.7	▲ 1.3
	灯油	65.2	63.9	▲ 1.3
	軽油	68.4	67.0	▲ 1.4

※上記価格は税抜き価格

参考値　（9/14～9/20実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.8
灯油	▲ 0.1	▲ 1.3	▲ 0.7
軽油	▲ 0.1	▲ 1.4	▲ 0.7
A重油	▲ 0.1		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

9月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（9月13日）比0.1円高の158.4円、軽油も同0.1円高の138.4円、灯油は18㌔㍑ベースで同2円高の1,761円（1㌔㍑ベースでは同0.1円高の97.8円）。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続ぶりの値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは17道県、横ばいは10県、値下がりは20都府県だった。全国最安値は152.5円の埼玉県（同0.1円高）、その次は、152.6円の宮城県（同横ばい）、他方、最高値は168.4円の長崎県（同0.1円安）だった。最も値上がりしたのは同1.2円高の滋賀県（158.1円）で、横ばいは佐賀県など10県、最も値下がりしたのは同1.3円安の東京都（160.5円）だった。

今週（9月7日～13日）は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高だったが、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週（9月23日～29日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。次回調査時（9月27日）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

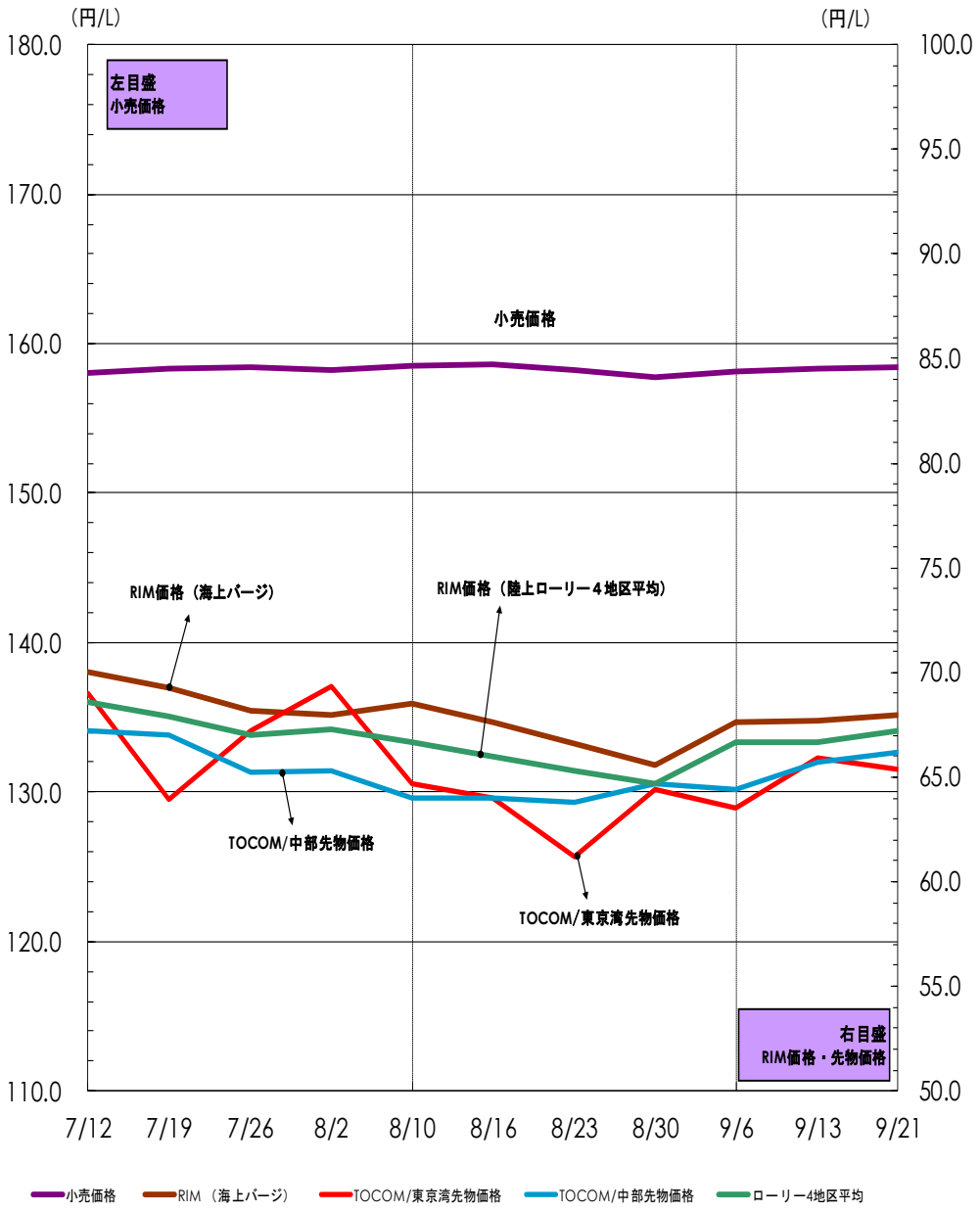
（単位：円/㌔㍑）

（資工庁公表）[週動向]		今週　(9/21)	前週　(9/13)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	158.4	158.3	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	97.8	97.7	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	138.4	138.3	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/7/12　～　2021/9/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第25号）の公表は、10/1（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和3年3月末現在）は、8月25日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。